

主体的に学ぶ生徒

図1は、「1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問についての回答です。「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的な回答した割合は、全国よりおよそ4ポイント高くなっています。また、図2は、「1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」という質問についての回答です。「当てはまる」と回答した割合は全国よりおよそ3ポイント高くなっています。

生徒の疑問や問いを活かした「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が、生徒の主体的な姿につながっていると考えられます。

「協働的な学び」のよさを感じている生徒

図3は、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問についての経年変化です。肯定的な回答をした生徒の割合は、令和5年度は80%を超え、学習指導要領改訂前の平成28年度と比較すると15ポイント高くなっています。これは、令和3年度から完全実施となった新学習指導要領の柱の一つである「協働的な学び」の実現に向けた授業改善が進んでいるものと考えられます。

授業でのICT機器の使用

図4は、「1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の質問についての経年変化です。令和5年度は83%の生徒が週に1回以上ICT機器を使用した学習を経験しています。調査を開始した令和4年度と比較すると、「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」と回答した割合は5ポイント高くなっています。週1、2回の使用では十分とは言えませんが、授業でICT機器を使用し、学習する機会は増えてきています。

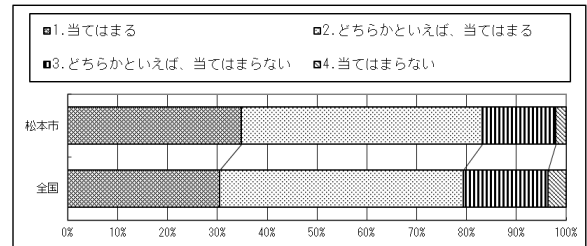


図1 「1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の回答

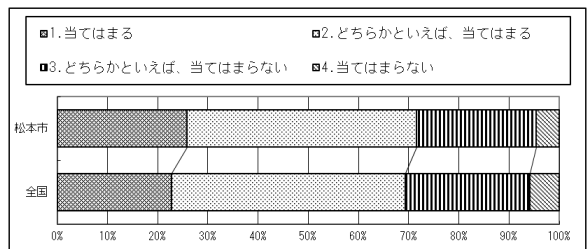


図2 「1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」の回答

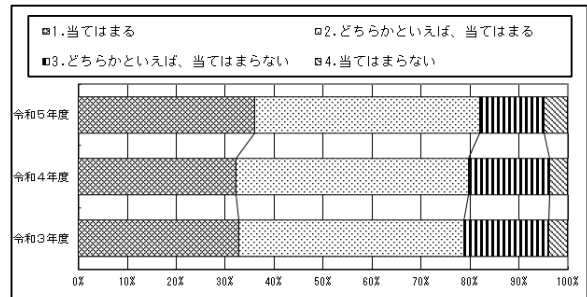


図3 「学級の生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の回答

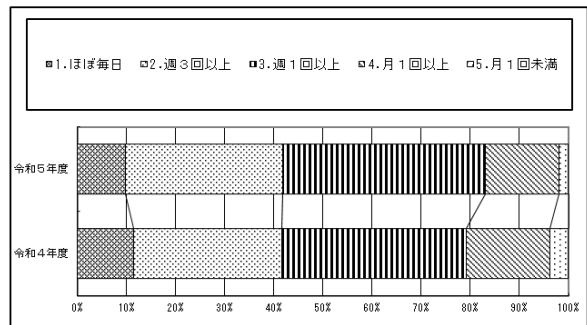


図4 「1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の回答

自分の考えをまとめる活動

表1は、「1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」の回答と平均正答率です。「当てはまる」と回答した生徒ほど、正答率が高くなっています。自己の学習を振り返って次につなげることが、主体的な学びの実現につながっていると言えます。習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解することが大切です。また、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」を実現していくことが大切だと考えられます。

表1「1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」の回答と各教科の平均正答率

| 選択肢 | 生徒数 | 生徒数の割合(%) | 平均正答率(%) | | |
|--------------------|-----|-----------|-------------|-------------|-------------|
| | | | 国語 (15問) | 数学 (15問) | 英語 (17問) |
| 1 当てはまる | 438 | 25.9 | 75.4 | 59.6 | 53.0 |
| 2 どちらかといえば、当てはまる | 774 | 45.7 | 72.1 | 53.8 | 47.2 |
| 3 どちらかといえば、当てはまらない | 401 | 23.7 | 64.8 | 45.4 | 39.0 |
| 4 当てはまらない | 79 | 4.7 | 56.1 | 36.5 | 31.1 |

個に応じた指導の充実

一方で、図5は、「1、2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」の質問についての経年変化です。「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒は、令和3年度や令和4年度と比べると減少しています。これは、生徒が自分にあった学習方法や教材、学習時間等をこれまで以上に求めているためだと考えられます。

教師が個に応じた指導をする際には、ICT機器の活用も含め、生徒が主体的に学習を進められるよう、それぞれの生徒が自分にふさわしい学習方法を模索するような態度を育てることが大切です。

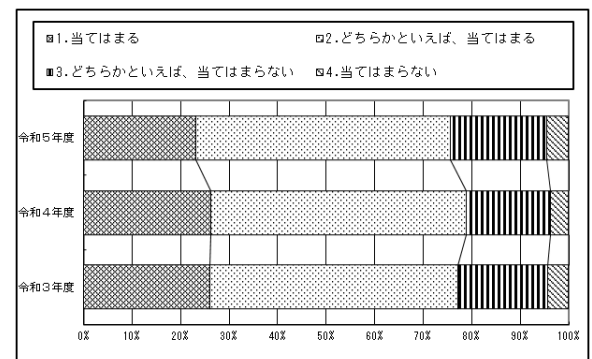


図5 「1、2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」の回答

総括

「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問や「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」の質問で、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している生徒の割合が高いです。

このように学習者である生徒の学びが充実している理由は、教師の授業改善が進んでいる結果だと言えます。1人1台端末により、探究の過程として位置づけられている「課題の設定」、「情報の収集」、「整理・分析」、「まとめ・表現」における活動が、徐々に充実してきています。このことにより、生徒には見通しをもって粘り強く取り組む力が身に付いたり、多様な考えに触れることで自分の考えを深めたりしていることが伺えます。

しかし、ICT機器を活用した授業改善はまだ十分ではありません。生徒の興味・関心に応じて、情報の探索、データの処理や視覚化、レポートの作成や情報発信といった活動にICT機器を効果的に活用することで、深い学びが実現していくものと考えられます。

今後の授業改善においては、ICT機器の活用も含めて生徒が自ら学習方法や進度などを選択する機会を設けることを、教師が強く意識することが重要です。教師が生徒一人一人に応じた学習課題や学習活動に取り組む環境を構成することで、生徒が学習の進め方を自らに合ったものに調整できるようにすることが期待されます。